

経済4団体新春賀詞交歓会

1月9日(水)、中経連は中部経済同友会、中部経営者協会、名古屋商工会議所とともに、新年恒例の「経済4団体新春賀詞交歓会」を名古屋市内にて開催し、約800名が参加した。主催4団体を代表し、須藤中部経済同友会代表幹事が新年の挨拶を述べ、大村愛知県知事の祝辞、河村名古屋市長による乾杯の後、参加者一同で新年を祝った。



4団体代表者による記者会見の様子



参加者をお迎える4団体代表者



乾杯で新年を祝う中部財界人たち



報道関係者からインタビューを受ける豊田会長

賀詞交歓会に先立ち、4団体代表者の記者会見を行った。挨拶の中で豊田会長は、昨年に続き「将来ビジョン策定」「イノベーション促進」「人材育成」を重点テーマに掲げ、実現への道筋を確かなものにする一年にしたいと新年の抱負を語った。

このうち将来ビジョン策定については、中部圏が目指す将来像を「新しい価値を生み出し、圧倒的なスピードと生産性を達成する『新世代の成長産業』を創出する地域」とし、実現に向けて必要な機能や環境、それを備えるための方策、推進する仕組みについて提言をまとめ、3月に公表すると述べた。

また、イノベーション促進と人材育成については、年内にイノベーションの支援拠点を名古屋市内に開設し、産学官連携のもとで、さまざまな支援プログラムや人材育成プログラムを提供していくことを紹介した。

質疑応答での豊田会長の発言要旨は次のとおり。

今年の中部経済の見通し

深刻な人手不足の中で省力化投資が高まっていること、企業業績や個人消費が堅調であることから、国内景気は内需を中心に底堅く推移すると見る。一方で、外部環境には楽観できない要因が多数存在する。とりわけ米中貿易摩擦の拡大と長期化に伴い、世界経済に負の影響が出はじめており、輸出企業を中心に今後の動向に注意する必要がある。

中部経済にとっての課題

政治・経済のあらゆる面で何が起るかわからない時代に入り、産業構造の大変革も進む。中部圏の持続的成長に向けて、「将来ビジョン策定」「イノベーション促進」「人材育成」に産学官と連携しながら取り組んでいく。「中部国際空港二本目滑走路の実現」「国土強靱化税制の拡充」についても、今年、活動量を増やしていきたい。

(総務部 奥田 知子)